

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・第4弾 業界イメージアップのヒントを探る… P1,P2
 □インボイス制度について… P3,P4 □ブロック長会議の開催結果… P4
 □2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業8月出荷状況と今期累計 /8月新車販売・
 使用済自動車発生台数… P5 □鉄スクラップ最新情報… P6
 □行事予定・お知らせ / 編集後記… P7

vol. **163**

第4弾 業界イメージアップのヒントを探る!! ～株式会社オートパーツ伊地知の取り組み～

01

「業界のイメージアップ」をテーマとした連載企画の第4弾として、今回は株式会社オートパーツ伊地知(鹿児島県鹿児島市)の取り組みについてご紹介いただきました。

オートパーツ伊地知は、2022年8月27日(土)に鹿児島市環境未来館が主催する”地域まるごと講座”に参加しました。このイベントは鹿児島市のかごしま環境未来館より依頼を受けて毎年行われるもので、県内の環境保全活動に取り組んでいる市民環境団体・NPO・事業所が各団体それぞれのテーマで開催している講座です。当社では2012年(平成24年)4月1日に、かごしま環境未来館登録団体に入会して2013年(平成25年)に地域まるごと共育講座を開催したことをキッカケに始まり、これまで200名の方に参加いただき、コロナウイルスが流行後では初めての開催となった今年は、会場で感染対策を徹底したうえで地元の小学生やその保護者など計14名の方にお越しいただきました。

工場の見学では、廃車となった車がリサイクルされる工程を見学してもらいました。日頃、自動車のリサイクル方法や現場を見ることが少ないため重機による解体作業やプレスされた自動車を見て、子どもたちのみならず大人の方々も圧倒されていた様子が印象的でした。

かごしま環境未来館共育講座開催レポート

くるくるクルマのリサイクル

日 時：2022年8月27日(土) 9:00～10:30
 実施団体：株式会社オートパーツ伊地知
 場 所：株式会社オートパーツ伊地知

内容：壊らなくなった車の部品を取り出し「リユース部品」としてよみがえらせる工程や、再利用できないものも資源化していく過程などを見学しました。

▼参加者の声
 子どもが車が好きで、興味深そうに楽しんでいました。貴重な体験ができました。ガソリンをぬくのがすごかった。車をつぶしてブロックにしたところが楽しかった。

From 未来館スタッフ
 実際の現場での見学は、迫力がありました。会社のみさんの丁寧な気配りがあり、安心して見学することができました。車のリユース・リサイクルについて学ぶことができて、車好きな参加者も大満足の講座となりました。

【講座紹介のページ】

巻頭言

「電子車検証」の制度が、普通車は来年1月から、軽自動車は再来年の1月から施行されます。普通車でしたら来年の1月以降に車検を取得した車から順次、「電子車検証」に切り替わっていきます。

「電子」と聞くと、「紙の車検証はなくなる?」とか「カード化される?」「今より便利になるの?」といったイメージをお持ちになるかもしれませんが。結論から申しますと紙はA6サイズで残り、ICタグが加わります。そして、整備事業者が運輸支局等へ出向くことなく、車検証情報を更新出来る“だけ”です。今までなら読めていた車検証の有効期間や所有者の氏名・住所はリーダーを使用しないと読めなくなり、私たちの業界としてはかえって作業が面倒になる可能性がございます。

「電子車検証」になることで「今までとどう変わるのか?」について次回のニュースレターでも記事としてご紹介

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 H P: http://www.elv.or.jp/

第4弾 業界イメージアップのヒントを探る!!

～株式会社オートパーツ伊地知の取り組み～

01

まだ使える部品は、取り外してしっかりと洗浄等を行ったうえでリサイクル部品として再利用されること、一方で再利用が出来ない部品は素材ごとに細かく分別されリサイクルされることなど、正に私たちの自動車解体業界がSDGsの12番「つくる責任・つかう責任」にも貢献しているのだということを感じていただけたと思っております。

また、当社が加盟しているNGP日本自動車リサイクル事業協同組合で行っているNGPアップサイクルプロジェクトとして、廃車になった自動車の取り扱い説明書をリサイクルして作られた「環境教育リサイクルノート」を見学を訪れた方に配布し、そのノートを用いて自動車リサイクルの一連の流れや、ノートができるまでの工程をまとめた動画を視聴するなど、SDGsや廃棄物の抑制、限りある資源を循環させていく大切さなどを学んでもらえたのではないかと思います。

こうした取り組みを重ねてきたことで、当社の社員にも良い影響をもたらしてくれたと感じています。20代の若手メンバーを中心にした講座の時間があるのですが、より分かりやすく伝えられるよう社員同士で意見交換やコミュニケーションを重ねる機会が増えたことと、担当外の仕事にも触れることで、仕事上での助け合いや思いやりの気持ちが芽生えたと社員から聞いています。自分たちの業界を知ってもらうことは、私たち自身にも学びと喜びの場を与えてくれるため、社員にとっても非常に重要な取り組みであるのだと思っております。



【普段取り外さない部品に興味津津】



【楽しく学べるように工夫しています】



【君も未来のリサイクラーに！】

当初、この業界を知らない方々は、私たちに対してどこか武骨なイメージを持たれている方が多いのかなと個人的に思っていて、そのイメージを変えたいという気持ちがありました。ですが、実際に見学を訪れた子どもたちや保護者の方からの感想から、私たちが普段一生懸命行っている仕事は地球環境の保全に直結していて、ある意味エッセンシャルワーカーであるのだということに改めて気づかされるとともに、この業界に対して良くないイメージを自分自身で決めつけていたのだと気づかされました。自分たちを知ってもらうこと、自分たちの業界を知ってもらうための取り組みを行うことで、私たち自身もこの業界について改めて認識を深めることが出来る良い機会になると思いますので、今後も継続して会社見学などの取り組みを行っていきたいと考えております。

株式会社オートパーツ伊地知
担当：石原 拓治 門之園 めい

2023年10月1日開始!インボイス制度について

—登録申請はお済みですか?—

02

2023年10月1日から開始されるインボイス制度についてまとめてみました。制度開始は10月1日ですが、適格請求書発行事業者になるには、2023年3月31日までに適格請求書発行事業者の登録申請をする必要があります。

インボイス制度とは、正式名称を「適格請求書等保存方式」といい、消費税の仕入税額控除に関する制度です。インボイス制度の開始後は、事業者が仕入税額控除を受ける為には、帳簿のほか取引先から交付されたインボイス(適格請求書)の保存が必要となります。

適格請求書とは、現行の区分記載請求書の記載事項に加え、「**適格請求書発行事業者の登録番号**」、「**適用税率**」、「**税率ごとに区分した消費税額等**」を記載したものを指します。

適格請求書必須項目	
1.	適格請求書発行事業者の氏名又は名称及び登録番号
2.	取引年月日
3.	取引内容(軽減税率の対象品目である旨)
4.	税率ごとに区分して合計した対価の額及び適用税率
5.	税率ごとの消費税額
6.	書類の交付を受ける事業者の氏名又は名称

※ 緑: 従来の請求書に追加された項目

請求書

2023年10月31日

(株)〇〇御中

①

〇〇商事(株)

登録番号: XXXXXXXX

郵便番号: 〒XXXX-XXXX

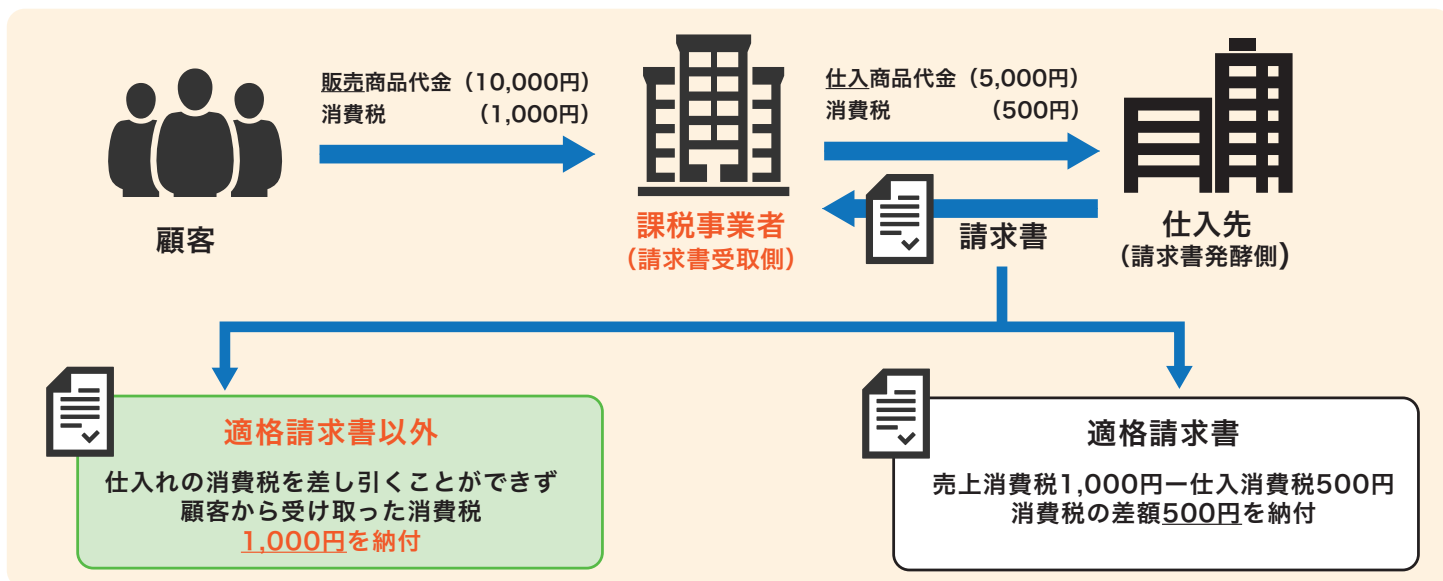
10月分 87,400円

目付	品目	個数	金額
10/1	マグカップ1個		1,000円
10/1	コーヒー 1袋		1,000円
111	111	111	111
小計			80,000円
消費税			7,400円
合計			87,400円⑤
④ 納付金: 90,000円	消費税: 1,000円		
納付金: 90,000円	消費税: 1,000円		
(※は軽減税率対象)			

「インボイス制度」の仕入税額控除

仕入の際に適格請求書を受けなければ、仕入税額控除の適用を受けられず納税額が増えてしまいます！

「インボイス制度」導入で一番の問題となるのが「仕入税額控除」です。預かった消費税から支払った消費税を引き算した差額が納税する消費税となります。下記の計算の中で、預かった消費税から支払った消費税を控除することを「仕入税額控除」と呼びます。もし仮に「仕入税額控除」が認められないと納税額が増えてしまいます。(下記、図参照)



帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められる場合

適格請求書などの請求書の交付を受けることが困難な以下の取引は、帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められます。

①古物営業、質屋または宅地建物取引業を営む事業者が適格請求書発行業者でない者から、古物、質物又は建物を当該事業者の棚卸資産として取得する取引

②適格請求書発行事業者でない者から再生資源又は再生部品を棚卸資産として購入する取引

(資料出典:国税庁)

我々の業界で一般ユーザーさんから買い取った車両は自社の帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められると伺っております。

注:相手が適格請求書発行事業者の場合は、この限りではありません。

インボイス制度に対応しないとうなる?

インボイス制度に対応していないと「仕入税額控除」が受けられなくなるため、買い手にとっては消費税の負担がのしかかります。一方、売り手側もインボイス制度に対応していないことが原因でビジネスの機会損失(取引先として選ばれなくなる可能性)につながる恐れがあります。

適格請求書発行事業者になるには?

インボイスの制度の開始は2023年10月1日ですが、適格請求書発行事業者になるには、**2023年3月31日までに適格請求書発行事業者の登録申請をする必要があります!**

事業者の方が適格請求書(インボイス)を交付するためには、納税地を所轄する税務署長に対して登録申請書を提出し、適格請求書発行事業者になる必要があります。

税務署における審査を経て、適格請求書発行事業者として登録された場合、「登録通知書」(登録番号や公表情報等が記載されています)が届きます。

■詳しくは国税庁HPをご参照ください↓(内容の修正により今後 URL が変更となる可能性がございます。)

https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_shinei.htm

ブロック長会議の開催結果

03

2022年9月6日(火)にWEBでの開催となった第2回ブロック長会議ですが、今回は本部活動の報告、各ブロックの活動状況や情報の共有に加え、会員増強活動について大きくスポットが当たりました。

当機構は自動車リサイクル産業に携わる全ての事業者を対象とする業界の全国組織として、今期には会員事業所のない空白県を無くすための活動を再開しておりますが、会員を増強する目的を明確にして機構一丸となって取り組む必要があるなかで、会員増強活動を各地域に一任するのではなく機構本部からも働きかけやアプローチなどを行うことや、機構の活動を理解出来るような魅力あるパンフレットを作成することなど、具体的な取り組み内容について意見が飛び交いました。

また、各ブロック等の会議でも会員増強について議論となっていることから、今後は機構本部と各ブロック・支部間の連携を強化し、会員でない事業者の方に機構の活動をきちんと理解していただける体制を築きつつ、少しずつ着実に会員数を増やしていくことが大事であるとの意見が出ました。加えて、組織力の強化にも併せて取り組み、今まで以上に会員の声にしっかりと耳を傾けることが必要であるということで出席者全員で、共通の認識を持てました。会員増強の議題に始まり、厳しい市況の中で今後の機構のあり方についても活発な議論が交わされた会議となりました。



【会議の様子】

2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 8月出荷状況と今期累計

04

【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 8月出荷状況と今期累計】

上段 8月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204
23	8	21	2	0	22	1	0
76	118	286	10	2	223	2	22

クラウン HV AWS210	SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
0	1	0	1	1	1	11	70
10	13	0	5	6	4	48	749

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

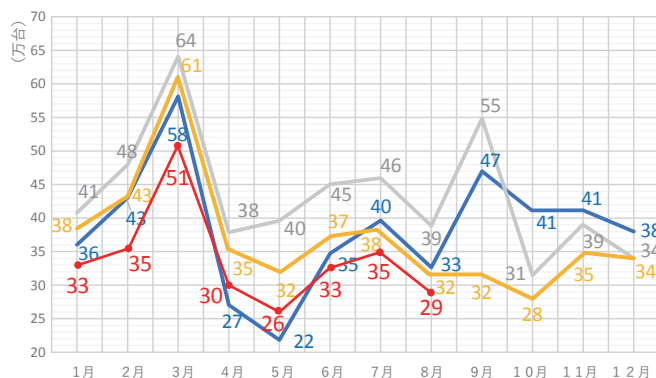
8月新車販売・使用済自動車発生台数

～8月の使用済自動車発生台数 前年同月比9%減～

05

■2022年8月度 新車販売台数 290,042台（前年同月比90.7%）

新車販売の月別推移（2022年 2021年 2020年 2019年）



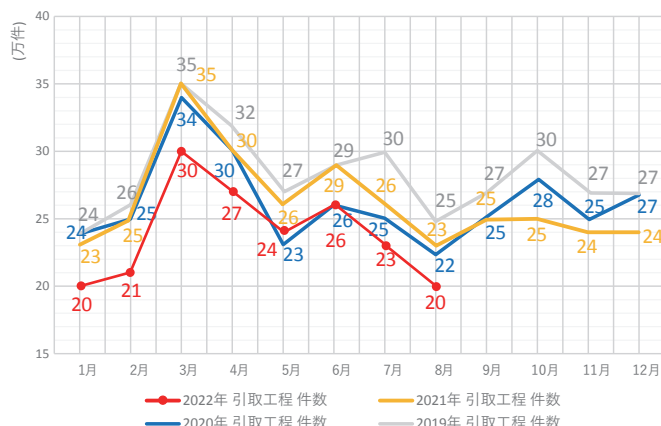
過去の新車販売台数推移

年累計	台 数	前年比(%)
2022年 (8月まで)	2,725,555	86.2
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2022年8月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

使用済自動車引取件数の月別推移(2022年 2021年 2020年 2019年)



引取件数

203,401件（前年同月比 87.1%）

フロン回収工程

181,773件（前年同月比 86.9%）

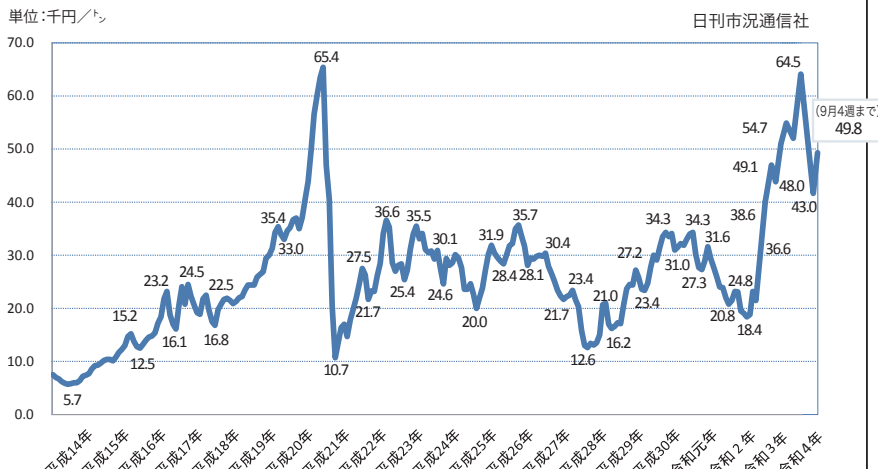
解体工程

212,417件（前年同月比 86.9%）

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

9月第4週(20日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



9月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	51,000～52,000	堅調様子見
	南関東	51,000～52,000	堅調様子見
	浜値	49,500～51,000	堅調様子見
名古屋		48,000～50,000	軟調様子見
関西	大阪	50,000～51,500	様子見
	姫路	50,000～50,500	様子見

海外市場は各方面で軟調気配 米HMS1&2トルコ向け気配はCFR350ドル割れ

海外の鉄スクラップ市場は、トルコ向けが徐々に値下がりしており9月第3週(12日以降)に入ってからも続落したほか、米国国内の9月向け契約が概ね前月比で20～30ドル下落の動きとなっただけでなく、米国からのアジア各方面への輸出も先週から今週にかけて段階的に値を下げるなど、各方面で軟調気配が継続している。

主要指標のトルコの鉄スクラップ輸入相場は、9月第3週の週明けから再び下落の動き。12日付でバルト海玉のHMS1&2(80:20)がCFR356ドル、シュレッターとボーナス(HS相当)がCFR376ドルを付けた。さらに欧州玉HMS1&2(80:20)がCFR340ドルで決まったほか、英国玉の成約が出ており、HMS1&2(80:20)がCFR342ドルを付けた。米国玉の新規成約は聞かれないが、これら欧州玉の動向から米国玉HMS1&2(80:20)の気配値は既にCFR350ドルを若干割り込んでいる。

ただトルコ産の鉄筋の輸出価格は9月第2週のスポット価格ではFOB680～700ドルと若干持ち直しており、今後の下支え材料となる可能性は高い。その一方で電力およびガスの急騰が伝えられるなどコストが上昇していることが、トルコ需要家が鉄スクラップの購入価格を低く抑えたい要因のひとつとなっている。

【関東地区】 値上げ一巡後は堅調様子見

関東市場は、メーカー筋の値上げ改定が9月16日の週末までに概ね一巡し、その後は堅調様子見の相場展開となっている。当初は値上げに消極的だった湾岸商社・シッパー筋も浜値をジリジリと値上げした結果、電炉購入価格が依然としてやや優位にはあるが、浜値がほぼ同水準まで上げ進んでいる。H2炉前実勢価格は51,000～52,000円中心、一部これより高値あり。H2浜値は1トンあたり49,500～50,500円中心、高値51,000円見当。

【東海地区】 電炉4社が17日から先行値下げへ

名古屋地区電炉の大同特殊鋼、愛知製鋼、中部鋼鉄、山口鋼業の4社は9月17日から一斉に一律1,000円値下げした。東京製鉄・田原工場が10日から全品種2,500円の値上げを実施し13日までに全メーカーが追随していたが、僅か4日後には一転して過半数のメーカーが値下げへと動いた。メーカーの入荷は、「8月後半に比べれば持ち直している」(商社筋)状況にある。H2炉前実勢価格は48,000～49,500円中心、高値50,000円見当。

【関西地区】 ヘビー中心にタイト感残り堅調様子見

関西地区の鉄スクラップ市況は堅調様子見にある。ヘビー類を中心にタイト感が残りつつも、海外含めた輸出市場の停滞などにより実勢価格を押し上げるほどの力強さは出ていない。新断などの上級品種については電炉需要の低迷が目立ちつつも、ヘビー類は電炉側から想定以上の入荷難を漏らす動きにあり、タイト感の残る展開となっている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が50,000～51,500円中心。姫路地区が50,000～50,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月20日午後時点のもの)

ー 10月の主な行事予定ー

■10月4日(火)

- ・第7回広報部会(対面)
- ・中国・四国ブロック会議(対面)

■10月7日(金)

- ・自動車リサイクル士新規講習会修了試験
札幌会場
- ※以下「自リ士修了試験」

■10月12日(水)

- ・第3回リサイクル技術部会(対面)

■10月14日(金)

- ・自リ士修了試験 仙台会場

■10月19日(水)

- ・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)
定例会(WEB)

■10月21日(金)

- ・自リ士修了試験 東京会場

■10月24日(月)

- ・第5回常任役員会(対面)

■10月26日(水)

- ・自リ士修了試験 名古屋会場

■10月28日(金)

- ・自リ士修了試験 岡山会場

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

自動車リサイクル士の修了試験が始まります！

2022年度自動車リサイクル士新規講習会の修了試験が10月7日の札幌会場を皮切りに全国7会場で開催されます。受験される皆様は改めて試験会場や開始時間、持ち物など以下のURLよりご確認ください。

【ご案内】 <https://www.elv.or.jp/media/20/20220530-2022sinnkiannnai.pdf>

※ 「2.修了試験開催日程・場所」 「6.試験会場への持ち物」の欄をご確認ください。

【試験終了後の流れ】

- ①合格発表：2022年12月頃 機構ホームページにて発表
- ②認定証等の発送：2023年1月末以降順次発送（合格者にのみ発送）

編集後記

今月もニュースレター163号をお読みいただきありがとうございました。

毎号この紙面作りにあたり、広報部会メンバー5名と事務局2名で頭を三角にしながら(頭を悩ます意味の福島県の方言)編集会議をしています。今号におきましては、激変する自動車業界での「車検証の電子化」にテーマを置き小宮山委員が巻頭言を、次号では広報部会として電子化の意味合いを小宮山委員が検証いたします。

また、今年度の我々部会のテーマである「業界のイメージアップ」を基に、伊地知委員の自社でのイベントを通して広くユーザーへのリサイクル業界の認知度アップをアピールし、木村委員においては、読者の皆様に少しでも情報提供出来ればと言う思いから、畑違いの問題を苦労して情報収集してもらいました。

そして、長年にわたり編集後記を執筆してもらいました永田委員には次号で巻頭言を書いていただくことになっていますので、久しぶりに永田委員の個性溢れる文章を読めることを楽しみにしたいと思います。

毎号各委員が忙しい時間の合間を縫って、慣れない取材や情報収集の結果でこのニュースレターは配信されています。今回も取材にご協力いただいた皆さん、情報を提供していただいた皆様には本当にありがとうございました。そして、最後まで読んで頂いた皆様にも感謝申し上げます。

今後も皆様の役に立つ情報を発信してまいりますので、広報部会へのご協力どうぞよろしくお願いいたします。

(広報部会長 田村 幸男)